

# 令和5年度 第1回学識者懇談会 議事概要

日時：令和5年10月30日（月） 13:30～16:00

場所：遠賀川河川事務所 会議室（Web会議）

## 1. 議事

### (1) 総合水系環境整備事業の事業評価

○事務局より「遠賀川総合水系環境整備事業」（資料2）を説明  
（審議結果）

- ・原案どおり、引き続き事業継続ということでした承。

（事業を進めるにあたっての留意事項に関する意見等）

- ・遠賀川水源地ポンプ室は現在も稼働している施設であるため、どちらかという滞在時間も短めになっている。他の観光スポットと絡めて文化観光として表現すると良い。

※【資料-2】P4、P32に反映

- ・福岡県が先進的にサイクルツーリズムに取り組んでいること、観光と連動した事業であることを表現すると良い。

※【資料-2】P5に反映

- ・水辺整備においても自然再生技術を導入する必要がある、自然の営力に任せる場所を位置づけても良いのではないか。例えばカヌー利用でも、自然環境を利用した観光事業もあるため、そのような観点も検討すると良い。

※【資料-2】P32に反映

- ・エコネットに関しては、本川との流路が塞がったときだけ河川管理者が入っていく方が良い。自然にある川の姿を利用することが常識になると良い。

⇒今後の住民ワーキング等で提案

- ・一般論として遠賀川は地域の活動が歴史的に活発なところである。ただ、事業評価のアンケート結果では関心の薄い箇所があるのではないかとと思われる。国土交通省はこういった地域に積極的に啓発していくことが必要。

⇒「かわまちづくり」の取り組みを通じ啓発を進める

- ・モノアラガイの主な生息域は上流部ではないので、ほかのものにするのが良い。マゴコロガイは河口部で間違いないが、代表的な種とは言い難い。他の代表的な種に変更するのが良い。

※【資料-2】P1に反映

- ・彦山川の写真説明でヨシ群落等が繁茂し水際に近づけない状況として説明しているが、自然環境保全の観点ではいい環境に見える。整備の必要性を適切に表現できる写真を用いて説明するのが良い。

※【資料-2】P12の下段写真とキャプションを変更

- ・河口堰の魚道公園では春から夏にかけて人が入れないくらい草が繁茂してしまう。うまく自然を活かして利用するためには、どのようにすれば良いか。  
⇒昨年度に河口堰管理支所と連携して土砂を投入した。草刈りも含めてメンテナンスは必要。

## (2) 遠賀川における最近の話題について

(主な意見等)

- ・外力規模が尋常でなくなっている。樋門・樋管は洪水時に堤防の被災に繋がることもあるが、遠賀川の樋門・樋管の数は非常に多く古いものも少なくない。エコネット事業とも連携して統廃合の検討をしてほしい。
- ・流域治水を進めるうえで、県区間の支川はできることがたくさんあると思うので、何か良い解決法が無いか検討してほしい。
- ・河川改修は河積のみでなく、河積と川幅・水深比を考慮して検討することが重要である。
- ・現在は魚類の種苗を放流することは遺伝子を守る観点から推奨していない。日本魚類学会の放流ガイドラインを確認すると良い。
- ・人口減少が進む将来には、草刈りしない箇所を位置づけても良いのでは無いか。環境と共存していくためのマネジメントが必要である。
- ・(エコロジカルネットワークの)案内パネルは簡素に記載するだけでは本当に必要なことが一般の人に伝わらない。見せかたを含め協議し、統一したデザインとするのが良いのでは無いか。

以上